

# イギリス



## Vol.1 幽霊も家族!?

今回からは、イギリスに留学されていた飯盛美季さんのお話をお届けします。

飯盛さんが留学していた街について教えてください。

私が留学していたのは、イギリスのロンドン郊外にある「ハムステッド」という街です。

ロンドン中心部とは違い、街全体は緑に囲まれ、おしゃれなカフェやショップが並び、有名人も住んでいる、とても落ち着いた雰囲気の素敵な街でした。

また、ハムステッドヒースという大きい公園が有名で、私も良く散歩に出かけたりしていましたよ。



暮らしてみてどんなところが大変でしたか？

ロンドンには、留学生を含め、海外から多くの人たちが来ているので、語学学校や住んでいた寮でも、人種・宗教の違いから、もめごとが起きたりすることがありました。

また、東京と比べて治安があまり良くないので、空き巣に入られたり、強盗にあってしまった子もいて、夜遅くに一人で外出する際は、常に周りには注意しながら行動していましたね。

では、暮らしてみてどんなところが「いいな」と思いましたか？



移民や留学生のとても多い都市なので、みんな視野が広く、とてもオープンマインドなんです。

だから、日本人に対する差別もなく、とても暮らしやすい国でしたね。

それと、ロンドンの中心部に行くと、無料で入れる美術館や博物館、劇場が数多くあるんです。

私も留学中は月に1回、ミュージカルやオペラを見に行っていました。

世界的に有名な芸術に気軽に、しかもお金もあまりかからず触れることのできるの、本当によい環境だと思いました。

『これは違うな』と思うこと、驚いたこと、戸惑ったことなどを教えてください。

とにかく日本と違い、交通機関がめちゃくちゃなことです。

地下鉄やバスに乗っていても行先が突然変わったり、ストライキが起きることが日常茶飯事で、常にアナウンスや表示に注意しながら交通機関を利用していました。

特にバスは次の停留所のアナウンスや表示もなく、誰も停止ボタンを押さなければ止まらないので、慣れるまでは、降り過ぎてしまったり、手前で降りてしまったりと戸惑うことが多かったです。

それと、日本と違い地震が起きない国なので、築年数が古ければ古いほど、家の値段は上がると聞きました。

私が最初に住んでいた寮も築100年以上は経過していたのですが、ハムステッドには古い家がたくさんあり、どれも街の風景とあっていて、とても美しかったです。

また驚いたのは、イギリスは幽霊の出るホーンテッドハウスがより値段が上がるって聞きました。

“家族が増えるから・・・”という感覚らしいですが、日本には無い文化の違いにびっくりでした。



幽霊も家族という感覚は、日本には無い面白い文化ですね。

次回は『お祝いごと』についてお届けします。お楽しみに

# イギリス



## Vol.2 イギリスのお祝い

前回に引き続き、飯盛美季さんからお話を伺います。  
今回のテーマは「イギリスのお祝い」です。

イギリスの誕生日のお祝いほどのようなものですか？

私が通っていた学校では、先生の誕生日にケーキを用意して生徒みんなで祝ってあげたりと、楽しく盛り上げるお祝いが印象的でした。

でも、本来イギリスでは、まわりの人たちがバースデーケーキを用意したり、祝ってあげたりするのではなく、誕生日を迎えた人自らがケーキを配ったり、パーティーを主催したりすることが多いそうですよ。

日本では有り得ない文化ですね。



それではイギリスの結婚式はどのようなものですか？

結婚式は教会で挙げるのが一般的ですね。

家族、同僚、友達を呼んでパーティーをするのは日本とあまり変わりませんが、私が参加したウェディングパーティーは、DJが曲を流しクラブのような雰囲気、白いウェディングドレスを着た花嫁が中心になって、子供からお年寄りまで年齢を問わずみんなで踊ったり、歌ったりしていてとても賑やかでした。



次にクリスマスについて教えてください。  
プレゼントや食事はどのようなものが一般的ですか？

プレゼントについては、日本のように「サンタさんが枕元にプレゼントを置いておいてくれる。」というのではなく、「モミの木の下にプレゼントが置いてある。」ということが多いようです。

恋人同士がクリスマスにプレゼントを交換するというのも一般的ではありませんでしたね。

そして食事ですが、私が住んでいた寮でクリスマスに出てきたのは「焼いた七面鳥」でした。他には、ローストポテトや芽キャベツ、カリフラワーなどの冬野菜を、形がなくなるほどくたくたに煮たお料理が伝統的ですね。特に、芽キャベツにはイギリス人は特別な思い入れがあるらしく、これが店頭で見ると立ち止まって感慨にふけっている人が必ず見かけられるんですよ(笑)。

それでは飯盛さんはどのようなクリスマスをお過ごしされましたか？

私は、カトリック系の寮に住んでいた時があったので、12月24日の深夜にみんなでミッドナイトキャロルのために教会へ行きました。最初は歌を歌ったりしながら楽しく過ごしますが、日付が変わる0時が近づくとみんな静かになるんです。そして25日になった瞬間に照明が明るくなって、周りの人たちと「peaceful with you」と言って握手をしました。クリスマスに教会へ行ったのは初めてだったのですが、雰囲気が日本の年越しみたいで、お正月の神社にいるような気分になりましたね。

また、日本では恋人と過ごすのが一般的ですが、イギリスではそういった習慣はなく、交通機関もすべて止まるし、お店も閉まってしまうので、クリスマスの当日は家で家族と過ごすのが定番のようです。だからクリスマスの街は人が全く歩いていないんですよ！日本人の私にはその様子がとてもめずらしく感じられたので、閑散とした街を友達と散歩しながら、きれいなイルミネーションの写真を撮って過ごしたこともありましたよ。

「閑散としたクリスマスの街」に、家族との時間を大切にしているイギリスの国民性が表れていますよね。

次回は「イギリスの日常生活」についてお届けします！

# イギリス



## Vol.3 留学をして見えたこと

前回に引き続き、飯盛美季さんからお話を伺います。  
今回はイギリスの性差の文化や、飯盛さんが日本とイギリスを比較して感じたことなどをお聞きしました。

**イギリスの男性・女性はそれぞれどんな特徴がありますか？**

女性は精神的に自立した強い人が多いのですが、男性はとて優しくて気を使える人が多いなという印象を受けましたね。

男性から見ると「イギリス人女性は強すぎる・・・」と感じる方もいるみたいで、日本人女性とお付き合いしている男性もいましたけどね。



**それでは家庭内での男女の役割はどのようになっていましたか？  
例えば女性は子供が出来たら仕事を辞めるなどという事はありますか？**



イギリスは基本的に男性が家事を手伝うという文化はないようなのですが、日本人男性と比べるとイギリス人男性の方が家族を大事にしているような気がしました。

また、自立している女性が多く、子供ができて仕事も続ける人は多かったですね。

子育てはベビーシッターを雇うなどして、仕事と家庭生活をうまく両立させているみたいですよ。

**それではイギリスと日本の生活を比較してみて気付いたこと、感じたことがあれば教えてください。**

イギリスの学校で勉強をしている時に感じたのは、日本人は授業中に意見を言う事がとても少なく、討論会にほとんど参加できていないなと言う事ですね。

日本の学校の授業では討論をする機会がほとんどないですからね。

もう少し授業にそういった要素を取り入れた方がいいかなと思いました。

それと、日本の人口、面積、宗教、政治など自国の基本的なことを答えられる日本人がほとんどいなく、私も含め、愛国心があまりないのかなあとも感じました。



良い点は、やはり日本は暮らしやすい国だと言う事です。  
治安もよく、交通機関はきちんとしていて便利です、街中にコンビニや朝まで開いているお店があります。そういった環境が当たり前だと思っていましたが、イギリスではそういった場所はありませんでした。

また、電化製品や車をとってみても日本製品は優れていて人気があります。日本経済は落ち込み気味といっても経済大国というイメージが強いようで、日本はすごい！というイメージで見られることが多く、日本人であることに誇りを感じましたよ。

**家事や育児、そして仕事をうまく両立させている女性と、「イギリス人女性は強すぎる・・・」と言いながらもそれを優しく気づかう男性。**

互いに認め合っているからこそそのバランスがうまく保たれているのでしょうね。

次回からは『タイ』についてお届けします。